



企業成長のカギを握る

技	能	士
	活	躍
好	事	例

集

「技能士」というクオリティ。

平成29年度 若年技能者人材育成支援等事業

企業向け



事例6 株式会社アイ・エス

業務内容

NC旋盤、マシニングセンタ、複合機による機械加工を行っている。
食品、医薬品等の衛生面に厳しく、
高精度が必要な製造装置の部品加工を得意とする。



Company Profile

企業名：株式会社アイ・エス
〒708-0331 岡山県苫田郡鏡野町布原297-8
業種：金属加工
設立年月：1984(昭和59)年4月
資本金：1,000万円
従業員数：24名
主な製品等：食品・飲料水・医薬品等の製造装置の部品や液晶製造装置に使用される洗浄ノズルなど

技能士の資格を取るだけでなく、それをいかに会社の中で活かしていけるかが大事

当社は、昭和59年4月に池田精工(株)からサニタリー部を分離独立し、(株)アイ・エスとして操業を開始しました。名前の由来は池田精工の頭文字を取ったものです。

当社のモットーは、お客様に対してオンリーワンの会社になることです。明るい社風を「活気」という原動力に変えて日々ものづくりに取り組んでおります。

創業からステンレスの加工にこだわり、加工技術を追求してまいりました。ステンレスは「錆びない」特性から食品、飲料水などの製造装置には欠かせない材料として使用されますが、一般的に難削材と呼ばれており、機械加工が困難な材料とされております。速く、正確に加工するためには、それなりの経験やノウハウがオペレーターに求められます。

オペレーターは現場、現物で実践をもとに育成を重ねていきます。一人前になるにはそれなりの時間がかかりますが、これが我々の仕事の価値だとも言えると思います。



(写真右)常務取締役 山崎 計夫 KAZUO YAMAZAKI

(写真左)製造部部长 原田 寿 HISASHI HARADA

技能士の資格は個人が一人ひとり努力して取れるもの、そしてそれによって会社も発展していくもの

技能士は個人が取る資格です。しかし、その一人ひとりの個人の努力により会社は発展していくものですので、会社としては資格の取得を応援していきたいと考えています。具体的には、機械での練習が必要な場合は別途時間を与えています。練習用の材料も会社で提供しています。受検料については支援していません。

技能士の資格取得者には等級に応じた金額を報奨金として支給しています。当社の技能士資格の取得率は高く、機械加工に従事している社員は受検資格ができれば全員が受検しています。受検の時期に関しては、上司の判断に委ねています。私も合格の可能性が高だろうと判断したり、本人も手ごたえがあって受検するのですが、こればかりはテストな

ので必ず合格するという訳にはいきませんが、それなりの成果は出ていると思います。

検定の指導については先輩取得者がいるので、要領やわからないことがあったらその都度相談しています。基本的には現場の指導で、今の生産にかかわる技術なども継承しているような形がとれています。近い年齢の社員がつながっていることも良いと思います。



1級技能士の存在はすごい営業力となる
技能検定の受検によって
従業員のレベルは確実に上がる

当社では、いわゆる営業部門を持っていませんが、やはり外に向かって発信するのに「うちには1級技能士がこれだけの人数います」と言えば、それはすごい営業力になります。従業員の間でも、級が上がるごとに資格を取った時の喜びが大きく、すごく嬉しそうに「取れました」と報告があります。資格を取得することで、技能士としての自覚が仕事への意欲にもつながります。生産工程でも仕事の難易度や活躍の度合いは取得級とイコールと見ています。仕事に対する「考え方」の変化が感じられます。

自覚というものにはテストでは出題されない態度や挨拶まで変えてまいります。

確かに1級技能士の資格を取得するためには、長い経験年数と仕事の合間に行う勉強が必要です。大変な努力と時間が必要です。しかし、1級を取ったというだけでなく、それをしっかりと仕事に活かしていけるかが1番大切です。資格を取った、で終わるのではなく勉強した知識や考えを指導者として後輩たちへ継承してもらわないともったいないです。なぜなら、現在生産している多くは複雑な形状で高精度な製品ばかりです。図面にも寸法や面粗さがギッシリと指示されています。

これだけの仕事をこなしていくには、求められている以上

のスキルが必要だということです。

加工した製品の精度や見栄えなど、更に上を目指してもらいたいです。そうしないと、技能士の効果がお客様のところまで届きませんから。最初にも申しましたが当社は営業部門がありません。私たちの言葉よりも現場を見てもらうことが一番の「営業」になると思います。

技能検定を意識しつつ
津山をステンレスの加工基地にする

技能士という資格自体が仕事をするうえでの適度なプレッシャーや意識向上につながったりするので、会社としては技能検定を推進していきたいです。

また全員で1級を取ろうという目標を掲げることで、会社全体のレベルや雰囲気上がるので、個人にも会社にも大きな意義があると考えます。

製造業は日本の根本を支えている企業だと思っています。私たちの会社はそれを縁の下から支える金属加工のプロ集団です。機械を手足のように使い、硬いステンレスを自由自在に加工する若い技能者を育成しています。

会社の立地する岡山県津山地域周辺は、ステンレスの加工として有名になりつつあります。団体としても津山ステンレスメタルクラスターやステンレスネットなどがあります。私たちの共通の夢は「津山をステンレスの加工基地」にすることです。

技能士数

職種名	作業名	特級	1級	2級	3級
機械加工	数値制御旋盤作業	-	3名	1名	2名
機械加工	マシニングセンタ作業	-	7名	1名	1名
機械加工	- (※)	1名	-	-	-

(※)特級は作業名なし (管理職で技能検定合格者数 特級1名、1級4名)

技能検定年間受検者数

年度	受検者数	合格者数
2015(平成27)年度	3名	1名
2016(平成28)年度	4名	1名
2017(平成29)年度	4名	1名

Interview

技能士インタビュー

株式会社アイ・エス

取得技能
機械加工(マシニングセンタ作業)1級技能士
機械加工(数値制御旋盤作業)3級技能士

技能士 井堀 裕海

製造部リーダー HIROMI IHORI

技能士の資格を取って
自分の進歩を感じよう



技能検定の準備勉強でいろいろな知識が身につき、 知識の幅がすごく広がる

ライン作業では将来の不安を感じた ものづくりを通じて仕事のやりがいを実感

私は高校を卒業したあと、大阪で就職しました。工業高校の機械科を卒業したこともあり、製造業に就きたいと思い大阪の製造会社に勤めました。しかし、ラインでの単純作業でしたので、このまま続けていて将来どうなるのかと不安を持つようになり、出身である津山に帰ってきたいという気持ちもあったため、地元で手に職がつく職場を探してみたところ、アイ・エスの存在を知り入社しました。

私はマシニングセンタを担当しています。当社では、どのような方法で加工するかは加工者が決定していきます。加工のプログラムをつくるのも、刃物をつけるのも、一連の段取りを1人のオペレーターが行います。加工方法は上司や先輩とも相談しますし、難易度の選別も上司が行いますので、悩んで作業が進まないようなことはありません。今は私も相談を受けることのほうが多くなりました。

プログラムなどはベテランの上手で速い人が作成したほうが作業の効率が良いかもしれませんが、一連の段取りをこなせることがオペレーターとして必要だと社長が言っていました。

この仕事のやりがいは、加工の工程が進むにつれて形状

が立体的にでき上がってくるところです。特に困難な製品が完成した時は格別です。

さらに、その製品が他の部品と組み合せて、1つの機械としてお客様のところで動いていることを想像すると良い仕事だなと思います。

仕事の指導は、現場で中心に行います。実際の図面を見ながら機械を使ってやるというのが上達の一番の近道だと思います。図面に指示されている寸法公差などは100分の1ミリ単位で調整しなければならないような製品ばかりです。中でも刃物はいろいろな種類があります。適切な切削条件がありますから、それをきちんと守って使わないと刃物の性能を引き出すことができません。間違った条件で使用すると刃物が折れたりすることにもなりかねませんので、その点はしっかりと教えられました。今後、後輩の指導でもそうしたことを伝えていかなければなりません。



トータルでものをつくることで 何度も充実感が味わえる

技能検定を受けたきっかけは、先輩たちが全員検定を受検するという環境をつくっていたので、自分も自然な流れで受検しました。

日々の作業で行っている項目はなんとかできると思いましたが、実技にしても、学科にしても範囲がかなり広いので、それを習得するまでにはすごく時間がかかりました。特に学科の勉強は、加工以外の電気や表面処理、破壊試験などその他の分野が多く出題されるため、参考書を買って、幅広く勉強する必要がありました。過去問題を中心に勉強しました。

普段何気なく削っている材料なども専門的に勉強すると、知らなかったことのほうが多く、受検勉強の充実感というのにはありました。しかし、検定試験というのは合格してしまえばその充実感も1回だけで終わってしましますが、トータルでものをつくるというのは充実感を何度も味わえます。1級技能士合格後は充実感に加え、良い意味での責任感も感じています。

技能検定の1級というのは、当社では技能士としてのスタートぐらいの感覚です。技能検定に合格することはゴールではなくて、大事なことはそれを活かして毎日の仕事に従事するということです。だから1級を目指してやるというのは大きい目標ですが、それだけでなく、それを毎日の仕事にも活かしていくということです。

技能士としての立場や責任への意識が 技量の向上につながる

金属加工の仕事には、寸法精度のほかにも面粗度や幾何公差というものが出て回ってきます。平面度とか平行度の精度を出すためには、どんな加工方法で行えばより良いのかなど、技能士の資格を取得してから今まで以上に意識して仕事ができるようになりました。図面通りの寸法で、見た目がきれいで、しかも早く完成させるというようなことをいつも考えて仕事に取り組んでいます。

入社してしばらくは図面通りの形にするのが精一杯で、そのうち寸法公差に入っているものが完成できるようになりました。今ではきれいに面を仕上げなくてはならない場所と少々粗くてもよい場所との区別をしっかりとつけ、製品としてのメリハリの必要度も見えるようになりました。

機械オペレーターの仕事は、自分で考えて作業することが多いので、時間はすぐに過ぎてしまいます。没頭しているとだんだん楽しくなってきます。次はもう少し難しいこともできるのかな、と考えることもあります。自分の精神的な進歩のようなものも感じます。

機械オペレーターなら技能士の資格を取るべきです。技能検定の準備勉強をすることでいろいろな知識が身につく、仕事の幅がすごく広がります。技能士としての立場や責任への意識が技量の向上につながっていると感じます。それだけでも十分に意義があることだと思います。個人のレベルアップが生産性や品質向上に直結している仕事です。